



## 区長との対話集会

校長 池田 浩二

1月31日、田中大輔中野区長が来校され、本校の2年生との『区長との対話集会』に参加されました。区長は年間で24回の区民との対話集会を開催されているそうですが、区民である小・中学生からも意見を聴きたいということで、24回のうちの1回を中学生、1回を小学生との対話集会にされているそうです。

本校の2年生からは、事前に準備していただくいくつかの質問をさせていただきましたが、どの質問も中学生の視点に立ったものでした。

「神田川がきれいではありません。昔、染め物ができたと聞きましたが、そのような川に戻すのにはどのようなことができるのでしょうか」「二中の隣にふれあい公園ができました。夜になると街灯が少なく歩くときに不安です。街灯を付けてもらえませんか」「パラリンピアンの方や高齢者の方と学校で交流する機会があったとき、バリアフリーになっていなくてみなさん大変そうでした。



た。学校にエレベーターがついたり、階段での移動が楽になったりするような工夫はされますか」「現在子供たちの活字離れが問題になっていますが、区長さんは中学生の時にどんな本を読んでいたか。また、私たちにお勧めの本があったら教えてください」

どの質問に対してもしっかりと回答していただきましたが、生徒会本部からの「いじめよりも『いじり』が気になるのですが、区長さんはどうしたら『いじめやいじり』がなくなると思えますか」という質問に対しても、「いじっている側、いじめている側の人間が、これはやってもいいことなのか、と自分に問いかけたところで立ち止まる勇気が必要です」と、中学生に語りかけるように回答してくださいました。生徒会役員藤本君がお礼のあいさつの中で、この言葉が胸にささりましたと述べたように、多くの二中学生の胸に響くメッセージでした。

18歳から選挙権が与えられるようになり、中学2年生も4年後には主権者として選挙に参加します。自分なりの視点で区政を見るきっかけになってくれればと思っています。

## 【1学年 社会科見学（都内めぐり）】

2月3日（金）、1学年は都内めぐりを行いました。冬休み中から事前学習を行い、東京のいろいろな場所や文化について調べ、知識を深めていきました。当日は班ごとに自分たちで考えたルートに沿って様々な場所をまわるなかで、江戸から続く伝統にふれたり現代の東京の姿を目にしたりと、普段暮らしている「東京」の新たな一面を自分の目で見て感じる事ができました。事後学習では班ごとに「私たちの発見」ポスターを作成し、自分たちの考えたこと・感じたことを他の班と発表し合いました。

また見学の中で、日本に来ていた外国人の方ともインタビュー交流も行いましたが、今回学んださまざまな東京の良さを、来たるオリンピックの際にも海外の方にぜひ伝えていってほしいと思います。



## 【桃園小学校・神明小学校特別支援学級交流会】

2月3日（金）神明小学校での交流会は、卒業生の小林 暖君の言葉で開会しました。

出し物大会では、神明学級は「よろしくね」のあいさつダンス、ひまわり学級は「オズの魔法使い」の劇を披露してくれました。節分の豆まきも行きすごく盛り上がりました。最後に1組の演奏と合唱を発表して出し物会を終え、各自のお弁当を広げての昼食を食べました。とても和やかな会でした。

小学生と中学生が交流できる行事はいろいろなことを気付かせてくれます。小学生が先輩たちの姿を見て、安心して入学できるようにこれからも続けていきたい行事だと思いました。





## 【1組スキー宿泊学習】

1組は2月8日（水）から2泊3日で、新潟県の舞子スノーリゾートへスキー宿泊学習に行きました。スキー、ソリ、雪合戦などを通して雪体験を楽しみました。しおりの計画よりも早く行動することができたので、予定よりも長くスキー実習を行うことができました。そのため、スキーは3日間でかなり上達しました。この行事の目的は、スキーの技能を向上させること、日常生活に必要な力を身につけることでした。宿舎での身辺整理・バイキング形式の食事、お土産購入学習を通して、自分でできることを増やすことができました。この3日間で身につけた力を学校生活でも活かしてほしいと思います。



## 【不審者対応訓練】

2月13日（月）、避難訓練の一環として、不審者対応訓練を行いました。中野警察署の指導のもと、不審者が現れた時の対応のしかたや各教室でのバリケードの作り方などを、実践を通して学ぶことができました。

不審者は、いつどのようなタイミングで現れるかわかりません。状況によっては、命にかかわる場合もあり得ます。今回の訓練をきっかけにして、「自分の身の安全を守る」ということについて考えを深めていってほしいと思います。



## 【書き初めコンクール】

1月23日(月)に、中野区立中学校書き初めコンクールが行われました。授業や冬休みの宿題等で提出された作品の中から学校代表として9点を出品し、見事本校の2名の生徒が区内で最優秀賞に選ばれました！受賞結果は以下の通りです。みなさんおめでとうございます！

### ◆最優秀賞

2 A 高橋 風芽くん      3 C 林 章絵さん

### ◆金賞

1 A 林 千晴さん

### ◆銀賞

1 A 枳原 一斗くん      2 A 大山 海由さん

### ◆銅賞

1 A 五十嵐涼太くん      2 B 今泉 胡春さん

3 A 今道 由愛さん

### ◆佳作

3 C 戸井 春歌さん



## 特別支援教育コラム 「人に仕事を合わせる」

学校の中で皆さんが毎日目にする色とりどりのチョーク。これらをどのような人たちが作っているか知っていますか。

昨年の4月に施行された「改正障害者雇用促進法」ができるもっと前、昭和35年に2名の知的障害者を雇用した会社でのお話です。チョークを作っているのは知的障害を持っている方々で現在、全社員の70パーセントにあたる人が障害を持っています。その人たちが今持っている力でできること、得意なこと、力を伸ばせることを最大限に活かして働いています。仕事をする上でも、一人一人の理解力に合わせて工夫がされています。例えば、

- (1) 製造の際、時計がよめなくても時間が計れるように砂時計を使う。
- (2) 出来上がったチョークを梱包する段ボール箱には、テープを貼るガイドラインを印刷しておく。
- (3) 工具置き場(壁のボード)には、工具の輪郭が原寸大で書かれていることで、形に合わせて誰もが片付けをすることができる。

などです。

作業する際の工夫や改善をし、仕事に人を合わせるのではなく、人に仕事を合わせることで、実は障害のある人だけでなく全ての人にとってわかりやすいものになっていることに気付きます。これらの工夫を考えることで、教室の中でも全ての人が同じように当番や係活動ができるような取り組みが出来ると思われれます。そしてお互いに理解しあって協力しながら生活ができるように、私たちも手だてを考えていきたいものです。